

1. 科目名 (単位数)	会計学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1351
2. 授業担当教員	久保田晋爾		
4. 授業形態	アクティブ・ラーニング (グループ・ディスカッションなどの双方向対話型授業)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	経営学関連科目を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	企業の経営成績や財政状況を把握するためには財務諸表 (貸借対照表、損益計算書など) を読み取る力が不可欠である。そのため、会計情報を利用するステークホルダー (利害関係者) には、会計の仕組みや専門用語の習得が求められる。そこで、本講義では、会計学の基礎的な理論や現状について考察する。財務諸表を理解するために、会計の考え方や会計の基本的な構成要素である資産・負債・純資産 (資本)・収益・費用などを学習する。		
8. 学習目標	1. 会計に興味を持つことができる。 2. 会計的思考法を理解できるようになる。 3. 数字を根拠に経営を考えることができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内容と関連したレポートを課します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・オリジナル資料を講義の都度配布します。 【参考書】 ・入門会計学改訂版 実教出版 ・ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級 大阪商工会議所編 中央経済社		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 会計学の基礎的な事項を理解し説明できるか。 2. 会計的思考法で考えることができるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。] 1. 授業への積極的参加 総合点の 30% 2. 課題レポート 総合点の 30% 3. 期末試験 総合点の 40%		
12. 受講生へのメッセージ	主体的に授業に参加し、会計学の基礎的な理論と現状を学び、会計のさまざまな問題について漠然とはなく論理的に考える力を身につけるよう心掛けていただきたい。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション/会計の意義	事前学習	身近な企業活動において「お金の流れ」がどのように把握されているか考える。
		事後学習	会計の役割と必要性を自分の言葉で整理する。
第 2 回	財務諸表とは/貸借対照表	事前学習	企業の財産とは何かを考え、資産・負債の違いを調べる。
		事後学習	貸借対照表の構造と意味を整理する。
第 3 回	流動資産	事前学習	現金や売掛金など短期的資産の種類を調べる。
		事後学習	流動資産の役割と企業経営への影響を整理する。
第 4 回	固定資産	事前学習	設備や土地など長期資産の特徴を調べる。
		事後学習	固定資産と減価償却の考え方を整理する。
第 5 回	負債と純資産	事前学習	借入金と自己資本の違いを考える。
		事後学習	財務構造の安全性の考え方を整理する。
第 6 回	損益計算書	事前学習	企業の利益はどのように計算されるかを考える。
		事後学習	損益計算書の構造と利益の種類を整理する。
第 7 回	収益と費用	事前学習	収益と費用の違いを具体例で考える。
		事後学習	発生主義の考え方を整理する。
第 8 回	キャッシュ・フロー計算書	事前学習	利益と現金の違いについて考える。
		事後学習	キャッシュ・フローの 3 区分を整理する。
第 9 回	財務分析	事前学習	企業の良し悪しを判断する指標を調べる。
		事後学習	代表的な財務指標の意味を整理する。
第 10 回	主要経営指標の理解	事前学習	ROA や ROE などの指標の概要を調べる。
		事後学習	各指標が示す経営状態を整理する。
第 11 回	原価計算、コスト・マネジメント財務状態	事前学習	製品のコストがどのように決まるか考える。
		事後学習	原価計算の目的と意思決定への活用を整理する。
第 12 回	株価等の分析	事前学習	株価がどのような情報で決まるか調べる。
		事後学習	企業価値評価の基本的な考え方を整理する。

第13回	損益分岐点分析	事前学習	利益が出る売上水準について考える。
		事後学習	損益分岐点の考え方と活用方法を整理する。
第14回	事例企業の財務分析	事前学習	対象企業の財務情報を調べる（第13回に事例企業を示します。）。
		事後学習	分析結果から経営課題を整理する。
第15回	総括	事前学習	これまでの内容を振り返り重要概念を整理する。
		事後学習	授業内容の確認と自分の考えをまとめる。
期末試験			